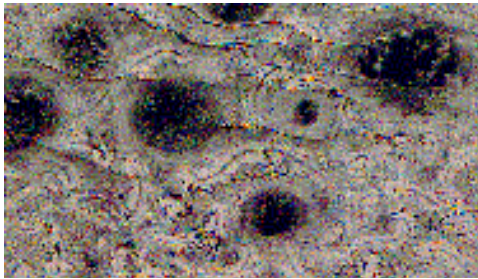


中学年 / 2 時間

鑑賞 + 表現【造形遊び】

題材の目標

墨の表現のよさや面白さを味わう。  
墨の濃淡を生かしたり，表現を工夫したりして，墨の不思議な世界をつくって楽しむ。



ぼんぼん (新水墨画十二題)



かいが (新水墨画十二題) 児玉 希望

準備物 【教師】和紙（半紙，障子紙，色紙など），新聞紙，墨汁，ドライヤーなど  
【児童】習字道具，タンポ，割りばしペンなど

学習の展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項	評 価 規 準
<p>「<sup>ぼんぼん</sup>」と「<sup>かいが</sup>」を見て感じたことや思いついたことを話し合う。</p> <p>* 何に見えるかな？           みたい，          のようだ</p> <p>* どんな感じがするかな？           の感じ</p> <p>作品の表現のよさや面白さを見つける。</p> <p>・墨の濃淡</p> <p>・表現方法の工夫（にじみ，ぼかし）</p> <p>墨の濃淡や表現方法を工夫しながら，不思議な世界をつくる。</p> <p>まとめ</p> <p>・お互いの作品を鑑賞する。</p>	<p>児童一人一人の見方や感じ方に共感しながら自由な発想を引き出し，見ることを楽しませる。</p> <p><sup>しょうみょう</sup>声明の声を聞かせ，どちらの絵のイメージか想像させるなどして，鑑賞を楽しませる。</p> <p>画面の中から面白いところや工夫している表現を見つけさせる。</p> <p>新たな表現を摸索し続けた児玉希望の心情に共感させ，表現のおもしろさや多様性に興味をもたせる。</p> <p>偶然にできたり，思いついたりした形や模様から想像を広げ，自由に表現する楽しさを味わわせる。</p> <p>色々試すことができるように紙は十分に用意しておく。</p>	<p>作品に描かれていることに関心をもとうとする。</p> <p>自分の発想を広げながら，表し方を工夫する。</p>

## 題材の意図と指導のポイント

### < 児童の発達段階との関連 >

3年生になると書写(習字)を学習し始め墨を使うことにも慣れ、児童にとって墨は身近なものになります。この題材は、手本を見ながら書く習字と違い、墨を画材として活用し、墨の濃淡を生かし新しい表現を味わわせるのに適しています。

### < 鑑賞の視点 >

墨のもつ可能性を追究した希望の作品から、墨の微妙な濃淡の美しさやにじみ・ぼかしなどの表現の面白さなどに気付かせていきましょう。

「梵唄」では、目に見えない声明の声や音を表現し、「海木」では、海に漂う海藻

のようなものが何か生き物のように見え、見る者に不思議な世界を垣間見せてくれます。見る者によって色々な味わい方ができる作品です。

### < 指導の工夫及び配慮 >

色々な表現方法が工夫できるように練習紙などを用意しておきましょう。

大小の筆、タンポや割りばしペンなど色々な道具を使って表現を楽しみましょう。

### < 教具(教材)づくり >

その他の表現方法として、墨を筆の先につけて散らす。墨を落とし吹き流す。型に墨をつけてスタンプする。などいろいろ工夫してみましょう。

児玉希望は、日本画家として風景や人物などたくさんの絵を描いています。ほかの作品も鑑賞してみましょう。

## 「新水墨画十二題」から『梵唄』『海木』

1959(昭和34)年

《絹・墨画(淡彩)・額装》

「新水墨画十二題」は、12枚で1組になっている作品です。「梵唄」と「海木」はその中の作品の題名で、「梵唄」とは声明の声や音を、「海木」とは海藻といった意味を表します。これらの作品は、絹の布に墨で描かれており、「梵唄」は形なき声や音を墨の濃淡やリズム感のある微妙な線の強弱で表現し、「海木」は海藻があたかも意志ある生き物のように海を泳いでいる感じがします。この作品からは、生涯を通じて幅広い画風に挑み続けた作者の墨に対する思いが伝わってくるようです。「新水墨画十二題」は、「梵唄」「海木」の他に、「緑塊」「白崖」「雲似」「滴律」「地紋」「徑」「銀漾」「日午」「金漾」「円鎖」(広島県立美術館所蔵)があります。

## 児玉 希望

児玉希望(本名、省三)(1898(明治31)年~1971(昭和46)年)は、広島県高田郡高宮町(現在の安芸高田市)に生まれました。幼くして両親を失い、祖父母の手で育てられ、一時期地元の小学校の代用教員

を勤めました。1917(大正6)年の暮れ、「祖父母のもっと豊かな生活をさせたい」という思いから覚悟を胸に秘めて故郷を旅立ち、翌年なんとか上京を果たしました。

東京では、苦しい生活の中ようやく川合玉堂の画塾に入門が許され、日本画家として歩み始めました。希望は、伝統的な日本画(山水・花鳥・人物など)のみならず、色彩豊かな洋画的表現、抽象画、仏画など様々な表現に生涯を通して挑戦しつづけた画家です。代表作の「室内」「暮春」など多くの作品が広島県立美術館に所蔵されています。